

第62回 東海北陸保育研究大会

# 愛知大会

AICHI/2021

すべての人が子どもと子育てに  
関わりをもつ社会の実現をめざして



主催 愛知県、名古屋市  
社会福祉法人愛知県社会福祉協議会、社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会  
東海北陸保育ブロック保育協議会

後援 内閣府、厚生労働省、社会福祉法人全国社会福祉協議会・全国保育協議会、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県  
社会福祉法人富山県社会福祉協議会、社会福祉法人石川県社会福祉協議会、社会福祉法人福井県社会福祉協議会、  
社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会、社会福祉法人三重県社会福祉協議会

---

## 第7分科会

### 「保育の社会化にむけて

#### ～保育の営みをいかに社会に発信するか～

---

少子化や核家族化がすすむなか、社会における人と人、とくに子どもとおとなが  
つながる場面が少なくなりつつあり、社会における子ども・子育てへの関心低下に  
つながっています。こうしたなか、子育て家庭や保育関係者にかぎらず、すべての  
人が子どもや子育てに関心をもつ取り組みが、安心して子どもを産み育てることが  
できる社会づくりにむけて大切です。

本テーマでは、保育所・認定こども園等の地域にむけた諸活動の展開により、広  
く地域や国民に対して子ども・子育てへの関心や保育の営みの重要性を発信し、地  
域全体で子育てを考えていく取り組みについて、研究を深めます。

【助言者】 梶山女学園大学 教育学部 教授 石橋 尚子 氏

【意見発表者】 愛知県 幼保連携型こども園明照保育園 園長 中島 章裕 氏  
主幹保育教諭 中島 美奈子 氏  
富山県 幼保連携型認定こども園 東山保育園  
事務長 竹田 弘征 氏

第7分科会 「保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会に発信するか～」

『多職種が集う公開保育・交流の取り組みと、ここからの展望』

愛知県 幼保連携型こども園 明照保育園 主幹保育教諭 中島美奈子

【はじめに】

少子化や核家族化がすすみ、子どもが家族以外の大人とつながる場面が少なくなりつつあり、同時に地域社会の子ども・子育てへの関心が低くなっている現状の中、当園では古くから保育とともに下にある地域の子育て支援に取り組んできました。

【園の概要】

- \*園児数 255名  
(①9名、①39名、②51名、  
③54名、④51名、⑤51名)
- \*小1～6児童クラブ生 131名
- \*開園時間 7:00～19:00
- \*創立 昭和28年  
平成27年度より認定こども園に

《地域社会を園に招き交流する取り組み》

地域子育て家庭支援「園庭開放&親子ひろば」・子ども食堂「おとなりさん」・無料学習支援「明照フリースクール」・地域の子どもや大人と交流する「なかよし保育」・保護者や地域の大人が保育活動などを体験する「おやくる」・「フリーマーケット」・「夕涼み会」・「あきまつり」・「作品展」…

《地域に出かけて交流・発信する取り組み》

地域の公園フェスティバルで園児のうた声発表・魚市場見学・高齢者施設への慰問交流・子ども未来館「ここにこ」での出前保育…

地域の人や保護者が気軽に園に立ち寄れる場を工夫したり、園児を連れて地域に出かけ様々な交流を図ったりすることで、子どもにとっては刺激を受け、視野を広げる体験となると同時に、大人は子どもの様子から元気を受け取り、子どもの育ちに関心を持つ機会となっていることを実感します。

未就園児親子の園庭開放では、園児の様子も積極的に見てもらうことで、いつも一緒にいる我が子が、いつかみんなと一緒にこんな成長をしていくんだと、子どもの育ちにイメージをふくらませる機会にもなっています。

【保育を社会に発信するためには】

さてここで、保育の社会化というテーマにある、「保育の営みをいかに社会に発信するか」について考えてみました。真に保育の社会化、言い換えれば社会に開かれた幼児教育を実現させ、保育の営みを社会に発信するためには、園だけでなく、支援の必要な子どもを含めたすべての子ども、子育て家庭に関わる保育、教育、医療、行政などの多職種の人が、それぞれの役割や信条を超えた子どもの育ち全体についてのイメージが持てることが重要だと思います。

子どもの育ちに関わるそれぞれの分野の中では、その専門性を活かしつつも、切り取られた役割の中に限界や課題も抱えている現状があるのではないのでしょうか。それらを抱え込まずに専門性の枠を超えて集い、目の前の子どもの育ちについてそれぞれの専門的な視点を出し合えるような場を作ることで、園の保育だけの発信ではなく、保育、教育、福祉、医療など子どもにかかわる関係機関による、広い視野での、今後の社会に向けての子育てや教育の大切さが発信できるのではないかと考えました。

【多職種の集う公開保育・交流の実施】

保育の営みを社会に発信する第一歩として、当園では、平成27年度から5年間、毎夏に公開保育を実施しました。HPやチラシで市内の関係機関に案内をし、参加者は、当初は地元の保育者、教員（小・中・高・大）、保育など子どもに関わる仕事をめざす高校生や大学生、保健、福祉、行政、保育者、幼児教育や心理学分野の研究者の方々が中心でしたが、次第に愛知県内、静岡地区からの参加もありました。

おおよその内容は、午前中に、園で実践する乳幼児の保育についてテーマに沿って話した後で、園内の環境とともに、0～5歳児の活動の様子と、小学6年生までの児童クラブ生が園児と交流したり、保育者の手伝いをするという園の日常を見ていただきます。昼食時はそれぞれの職種の方がテーブルを囲んで楽しく情報交換し、午後は毎回テーマを設けてワークショップを行うという流れです。

	保育のテーマ	ワークショップテーマ	参加者
H27.8	「つながりを大切に作る保育」	「公開保育に参加して」	33名
H28.8	「保育を高める食育活動」	〃	68名
H29.8	「保育に見る非認知的な心の力」	「〇〇君について語り合おう」	37名
H30.8	「幼児期の終わりまでに 育つことが望ましい10の姿」	「子どもにとっての 理想の未来社会を考えよう」	63名
R 1.8	「社会に開かれた乳幼児教育」	「みんなで違いを体験しよう」	66名
R 2.8	コロナ禍により中止		



多職種である参加者は、園でとにかく元気に活動する子ども達の姿を目の当たりにし、保育者等による0歳児からのきめ細やかな養護に関する場面から、徐々に基本的な生活習慣の確立を経て様々な場面で自分の力を発揮して友達と協同していこうとする幼児たちの姿、そんな集団またはひとりひとりに対して必要な支援をしていく保育者の様子に触れて、乳幼児の育ちについてそれぞれの視点から気づきを得ているようでした。

午後のワークショップでは、はじめは職種が違うことで遠慮したり緊張されてもいたようですが、職業や立場を超えて、肩の力を抜き広い視野で話し合えるようなテーマを検討することで、次第にほぐれていく様子が見られました。自分の専門分野からのコメントを交わし合い、広い視野での交流がなされていく印象がありました。

なかには仕事と自身の家庭生活での話が出されることもあり、参加者は専門職を持つ社会人でありつつも、地域の一員でもあるわけで、職業の枠を超えた人間らしい価値観で、地域の子どもの育ちを考え合う意義深い場にもなったことをその場において感じました。

多職種の集う公開保育で得た子どもの育ちへの広い視野での価値観は、社会に向けて幅広く発信できるものだと思えました。

### 【ポストコロナ時代への保育の展望】

昨年度からはコロナ禍の保育を余儀なくされ、何とか工夫しつつも以前のように行えていないという大変残念な状況にあります。密や交流なくしては成り立たない乳幼児の心身の育ちがこの時期に制限されることで、生涯にわたりどのような影響をもたらすのか心配はつきません。

公開保育においても、参加した経験を職場に戻って活かしていくことが、回を重ねることで少しずつ浸透されていくと思われていたところに、新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度は実施することができず、再開に向けて検討を重ねています。

一方で昨年度から、オンラインシステムは保育の研修や会議においてもかなり広がりを見せています。園でも、昨年度の自粛期間中に、保育ビデオを保育者で手分けして作り、全家庭に毎日配信しました。家庭で過ごす園児も登園児も、いつもと違う生活に不安を感じ、保護者も感染対策に注意を払い緊張する日々の中、「保育園から毎日送られてくる先生たちの楽しい様子に元気づけられた」との声が多く聞かれました。多職種の集う公開保育においても、オンラインシステム等の活用により、保育の社会化のむけての発信が、さらに広くできていく方法も検討していきたいと考えています。

また、豊橋市では、昨年度より「のびるん de スクール」と称し、学校における放課後の安心な居場所で新たな学びの場をスタートし、R5年度までには市内すべての小学校に設置される予定だそうです。そこには地域のボランティアや市内で活躍しているアスリートたち、医療機関などからも積極的に集まり、教員OBの見守る中で子どもたちと関わっていきます。このような活動を通して地域の子育て力を高める上で、多職種による連携の機会は、今後長く広く続けられることが重要になってくると思われれます。

私たちは、ポストコロナ時代においても保育の専門性を磨きつつ、社会に開かれた乳幼児教育のあり方を考えることが必要であると考えています。そのためにも多職種の交流を大切にしていきたいと思っています。